

検査のパレット

今回から 2 回に分けて便検査についてお話しします

当院で扱っている便検査は、**便ヒトヘモ定性検査・細菌検査・ノロウイルス検査・ロタウイルス検査・加ストリジュム・デ・イライ検査（CD チェック）・虫卵検査**です。今回は便ヒトヘモ定性検査と細菌検査について説明します。

基本的にはそれぞれの検査には便が必要になってきますが、検査方法によっては**専用の容器を使用**することがあります。

1. 便ヒトヘモ定性検査について

便ヒトヘモ定性検査は消化管出血の有無を調べる検査です。最近では**大腸がんのスクリーニング検査**として普及し、二日間採便をすることで効果的な結果が得られています。この検査はヒトヘモグロビンに特異的に反応するため食事による影響はありませんが、変性したヘモグロビンには反応しないので**上部消化管（胃や十二指腸）での出血を確実にとらえることができないのが欠点**です。

注意点として

- ①**専用の採便容器を使用する**ため便の表面をまんべんなくこすり潜血管所が均等に取れるようにします。量は採便棒の先端のらせん状の溝が埋まるぐらいに取ります。多すぎるとキャップを閉めた時便がはみ出てしまい容器が汚れる上、不衛生です。
 - ②容器の中の緩衝液を捨てたり、水を足してはいけません。
 - ③採便容器のキャップを引き抜いて、直接肛門に刺さないようにして下さい。肛門を傷つけたり、出血により偽陽性になります。
- なお**室温では5日保存可能です**。冷蔵庫で保存する場合は 14 日間保存可能です。

2. 細菌検査について

細菌検査は下痢や嘔吐を起こしたとき**原因になっている細菌（バイキン）が何か調べるための検査**です。検査の一連の流れは、まず便に潜んでいる下痢の原因となる菌を増殖させます（これを**培養**と言います）次に原因となる菌の正体を調べます（これを**同定検査**と言います）最後にどの抗生剤が効くかを調べます（これを**薬剤感受性試験**と言います）

以上の一連の流れから、菌名が判明するまで**3～4 日**かかります。

発育の遅い菌の場合は**7～10 日**かかることもあります。

採便方法は基本的には**便専用の容器に便をあずき大ほど取ります。**

採便しにくい場合は検査室に御相談下さい

感染性腸炎の原因となる菌

サルモネラ・キャンピロバクター・腸炎ビブリオ（腸管感染症の 3 大起因菌）

黄色ブドウ球菌・病原性大腸菌

ほぼ 90% 占めます

その他に、エルシニア・ボツリヌス菌・セレウス菌・ウエルシュ菌・リステア菌

今回はノロウイルス・ロタウイルス・CD チェック・虫卵検査・ESBL 産生菌についてです
今後とも検査室を宜しくお願い致します。

文責：白濱小百合 監修：石竹 久仁